

平成26年度 佐賀県立唐津工業高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標		2 本年度の重点目標		
21世紀を担う心身共に健康でたくましく、知徳体の調和の取れた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献出来る人材を育成する。 (学校経営ビジョン) 全ての生徒が入学して良かったと思う学校、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり。		①学校教育目標の周知と地域への情報発信 ②いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応 ③生徒は授業を改善、教師は授業を充実 ④規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上 ⑤進路指導の充実 ⑥校内(特に教室)の美化 ⑦資格取得への意識の醸成と実績の向上 ⑧部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」 ⑨ICT利活用教育の推進		
3 目標・計画				
①学校教育目標の周知と地域への情報発信				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	保護者や生徒の重点目標の周知度を70%以上にする。 学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対しては、PTA総会、地区保護者会、唐工ニュースで周知を図る。 重点目標を中央廊下に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。 学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つ一つの取り組みを徹底する。
		地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	高校入試志願率の向上 (一般入試で定員の1.2倍以上を確保)	<ul style="list-style-type: none"> 唐工ニュースやメディアなどを通じて、活躍する生徒の情報を地域へ積極的に発信する。 体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会等では学校PR用の動画を用い、生徒に分かりやすい説明を行う。
②いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ問題の防止と早期発見	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題の早期発見のためのアンケートを2ヶ月に1回実施する いじめ問題が発生しないための校内巡視の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを2ヶ月に1回実施し、その後生徒全員に対して面談を実施し、問題の早期発見、防止につなげる。 いじめ問題等が発生しないよう、職員朝礼時の校内巡視、屋休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。 ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育む。
③生徒は授業を改善、教師は授業を充実				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	授業態度の改善	授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真剣な態度で受けるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 「学習状況調査記入簿」の活用を推進し、保護者面談や成績評価時に効果的に利用できるようにする。 各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対処しその都度、改善を促していく。 学習評価において、授業態度を大幅に重視(35%)することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。
④規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	頭髪・服装指導の改善	登下校はもとより、普段の身だしなみに対する意識を向上させ、さらに頭髪・服装検査合格者を昨年度より増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> 3人担任制を有効に運用することにより、改善を図る。 頭髪・服装検査の強化及びイエローカードの活用。 普段の着こなしに対する新たな指導方法を確立する。
		道徳教育の推進	規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 年16回、10分間の「ヒューマントレーニング」を実施する。 学期に1回、テーマを生徒に設定させる。 予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、回収した後、担任・教務等で検証し、しっかりした意見等については中央廊下や教室に掲示する。 心に響く、心を揺さぶる刺激を与えるような意見は学校HPIに掲載するなど、保護者にも子どもたちが考えていること紹介する。
		ボランティア活動への積極的参加	生徒会主催の校内ボランティア活動への参加、及び各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数100名を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員の生徒に校内の小さなボランティア(あいさつ運動や清掃ボランティア)を企画させ、短時間で少人数のスマートな奉仕活動を数多く行い、学校全体に潤いを与えていくようにする。 毎学期学校周辺での清掃活動を実施し、唐津特別支援学校行事への参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。 ボランティア参加実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。
⑤進路指導の充実				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○進路指導	進路の実現	生徒が主体的に進路を選択し、卒業時の進路決定率100%を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の就職・進学の実現を目指して基礎学力の向上に努める。 会社訪問を行い、職場開拓や求人会社の情報を生徒に提供する。 進学希望者については、1年時から進学意志の確認と高揚に努め、基礎教科について個別指導を行う。

⑥校内(特に教室)の美化				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓発、施設の安全点検	職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるようにする。ゴミの減量化と資源物(紙類)の回収を実施する。安全点検を実施し、必要な対策を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 教室の校内美化点検を毎週末行い、結果を担任へ報告する。 ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。 毎月、各点検箇所の責任者が安全点検を実施し、報告する。 環境問題についてHR活動を通して生徒の意識の啓発をはかる
⑦資格取得への意欲の醸成と実績の向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	学力が低い生徒には、確かな基礎学力を身につけさせる。また、出口である3年生の就職試験は1回目の試験で希望通りの合格が出来るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 「数学会」は、今年度も数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日3名ずつの輪番にて1学期間中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。 進路指導部とも連携し、特に3年生については昨年度の指導形態を踏まえ、基礎学力をより一層定着させ、就職試験は一次試験で合格できるよう全職員で取り組むよう計画する。
		資格取得の推進	資格試験の合格率を前年度より10%アップする。	<ul style="list-style-type: none"> 「資格試験ハンドブック」を有効に活用し、各自が卒業までに取得を希望する資格を決めさせる。 資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。
⑧部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別活動	部活動の活性化	部活動への加入を奨励する。加入率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 入学式、各集会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を奨励し、1年生の入部率を向上させる。 とくに1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員加入を経て、部活動の魅力を感じさせ、充実した学校生活に役立たせる。 部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。
教育活動	○地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	「ものづくり」を通して地域に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 地域から依頼された物を製作する。 地元のイベントでもものづくりの体験をしてみよう。
⑨ICT利活用教育の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●ICT利活用教育の推進	タブレット・電子黒板を利用した授業の推進	電子黒板・学習用PCを積極的に活用するために、授業手法の見直しを行い、わかりやすい授業の実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU、xSyncの使用法の研修を行う。 学習用PCを有効に使うためのWord、Powerpoint利用研修を行う。 不具合等の対策を可能な限り素早く行い、円滑な授業運営を支える。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	健康の自己管理能力向上の推進	保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目